

相接セントルノ今日ニ迂闊ナルガ如クニ見ヘ或ハ
右ノ一事政治上ノ眼ヲ以テ見レバ國國ノ兵馬將サニ
中ヨリ御人標ニア況度邁進ノ軍艦ヲ招ケテ其國若ノ
セハ最モ至當ノ御事ナラシト倣ス其御使ハ宮内省
上ハ辦理大臣ト共ニ京城ニ至リ特ニ王室ノ事情ヲ詳
ニシア速ニ復命アソシト我々ノ冀望ン奉リ所ナリ
彼ノ政府ノ内情ヲ知リナカラ特ニ表面ノ御使トアリ
テハ其情厚キニ似テ却テ冷ナリトノ評モアラント
雖ニ畢竟私心ナ以テ評スレハコソ然ルモノミ若々又其王
室ノ朝鮮王室ニ對セラル、所ハ固ヨリ政治上ノ關係
アル可キニ非ス唯一片ノ御交情アルノミ若々又其王
室ノ内情諸新聞紙ニ述ルガ如キ有様ナラバ政治上ニ
關シテモ間接ニ大効力ヲ呈ス可キモノナリ今回ノ一
事變ニ付我日本ハ兵令ヒ一時兵力ヲ用ルヲアルモ其
又言ハズシテ明ナリ然ルニ今日兩國ノ交際將サニ破
和ノ目的アレバ其國人ノ心ヲ収攬スルノ大切ナムハ
シテスル所ハ平和ノ局ヲ結フ可キヤ論チ俟タス既ニ平
レントスル其時ニ臨テモ我帝室ハ獨り交情ノ厚キチ
盛サセラル、ノ歎ナ明ニスルモノニシテ彼ノ民情ニ
影響スル實ニ少々ナラザル可シ仮令彼ノ賊徒ノ身チ
以テスルモ我寛大ノ德恩ニ痛入ル可キハ啻ニ頂門ノ
一針ノミナラス其効力蓋シ一隻ノ軍艦數千ノ兵ニ優
レモノ、云フ可ナリ

雜報

○故梨本宮 近々同宮御一週年祭より當らせふぞふに
付麻布市兵衛町ある有栖川左府宮及び伊藤參議並
れ當日之皇族大臣參議及び華族神官教正の方々をも
招セトれて伶樂等あるといふ

○有栖川宮及伊藤參議 今度朝鮮國變動に付ては當
時洋行中なる有栖川左府宮及び伊藤參議並に日
々其筋より電報を以て該件よ係る事とも通知せらる
ゝよしあるが猶還韓の花房公使ヲ諉判の摸様より
ては尚君よりも速くに歸朝する様必らず達せらるべし
といへど果して然る哉

○馬關六月六日午前六時發近衛書記官、大庭永成、武
田邦太郎、杉山少佐等樂組みたり品川丸に乘組
る都督は昨日登城船ヘ乗組み釜山へ行く耐田領事
と共に元山へ行く積り

馬關八月五日午後四時發

馬關記者以下乗組の後去る六日午前既より仁川へ向ひ、
着港ありしるべを而えて靈城船ひ云る順昌釜山へ
らねるよしありしが此電報の意より萬び馬關へ
ハ歸す釜山幕の上副田領事ど乗せ元山津へ廻り同
所を尋ねすることあるへし

又井上外務卿の一行は一昨七日朝無事馬關へ着され
たるよし

又在下の關井上外務卿より左の電報到達したり

馬關八月七日午後七時發

金剛磐城の二艦は既より朝鮮より天城日進に
二艦も未だ着せず

又馬關の花房公使より擔田外務少輔へ宛左電報あ
りより

馬關八月七日午後七時五分發

英國測量船は本月一日午前一時釜山へ入港凡三十
分時間滞泊直ちより仁川へ向け出帆せり

此測量船と即ち花房公使以下を南陽沖より乘せ來
りたる英船フライイング・ペシシユ等にて同船の去
月卅日長崎着の後東京英國公使バークス氏よりの
電報よき事情探求に爲め直ちより仁川へ向け出帆た
るよしよりしが一時釜山へ立寄ることあるへし
○陸軍卿内達　今回朝鮮事件に付ては尙時出張を命
ぜぶるゝとも兼て差支へあき様各自心懸質く可き旨
陸軍卿より此程各十官の方々へ内達せられたり

○至急出兵　熊本鎮臺常備兵ハ至急出兵仰付られさ
るゝ付東京鎮臺よりハ大坂へ大坂鎮臺よりは廣島へ
廣島鎮臺よりは熊本へ後備として至急出兵可致旨昨
日陸軍省より達せられたるよし

○中山寛六郎君　昨日太政官權少書記官に兼任さ
れたる參事院書官補中山寛六郎君ハ昨日至急御用より
朝鮮仁川港へ出張せられたり

○朝鮮人の建白　昨日の紙上に記したる如く在東京
の朝鮮紳士ダ連署して去る六日三條太政大臣へ朝鮮
出師一條に關する書面を差出たるが其折三條公之
御所勞のよしにて朝鮮人へ面接させられざりしが三
四日の中より何分の沙汰すべをとて書面文け受取ふれ
るよし

○長崎米廩事件と付長右より付ての、眞君が大震に充るゝ、
車の大箱へ向を運搬する、
○注意以致を載る云々
般戦地事變注意致之、
て海軍省より
事務所取扱よし」とは
○電報誤讀の事情を電
ものも大同徒は近日所
吉田外務大刑を受る赴
○書神風連悟感るあり
神風連と稱の一人ある
れしも満期連悟感るあり
起るをきく出張せんと
名ふ及びしを練習して
へ出兵の儀調印して
○新聞社圖様の所とて内に一室を
管理し各社化の開け一
年ふと縣會議事場の被失
○無罪宣判